

リードアジアプログラム

外国语学部 中国語学科 3年 三浦 史華

私は、八月二十日～二十八日の九日間、リードアジアプログラム（主催：日中学生交流連盟 独立行政法人 国際交流基金日中交流センター）に参加しました。

このプログラムは、近年の就職活動やインターンシップへの関心の高まりを背景に、「働くことへの好奇心をきっかけに、日中交流に興味を持つてもらおう」というコンセプトのもとに生まれた新しい日中交流プログラムで、ビジネス（企業訪問）をメインとし、対中ビジネスなどをテーマに日中両国の学生が共同で課題（ディスカッション）に取り組むほか、文化交流を共に行うことを通して、アジアをリードする人材へと成長することを第一歩になることを目的としているプログラムです。

このプログラムは、近年の就職活動やインター

ンシップへの関心の高まりを背景に、「働くことへの好奇心をきっかけに、日中交流に興味を持つてもらおう」というコンセプトのもとに生まれた新しい日中交流プログラムで、ビジネス（企業訪問）をメインとし、対中ビジネスなどをテーマに日中両国の学生が共同で課題（ディスカッショ

ン）に取り組むほか、文化交流を共に行うことを通して、アジアをリードする人材へと成長することを第一歩になることを目的としているプログラムです。

リードアジアプログラム初日、期待と不安いっぱいでの日を迎えたが、その不安は自己紹介を終えてすぐに、打ち消されました。自己紹介の休憩の時間には五人の友達が話しかけてくれ、すぐに打ち解け、私の長所である社交性にスイッチが入りました。その後のアイスブレイク（マッシュマロタワー）では、見事優勝を収め、幸先の良いスタートを切ることが出来ました。

私が、このプログラムを知ったきっかけは、大学生交流事業（主催：国際交流基金日中交流セ

二日目は、元野村総研中国副経理の寺島英雄様、元丸紅中国総代表／A B I Cの真鍋忠央様

三日目・企業訪問初日は、横河電機様と藤田觀光様（ホテル椿山荘東京）に伺いました。横河電機様では、グローバル企業とは？という定義に

から三日目から始まる企業訪問で着目すべき点、ディスカッションのコツ、中国やその他海外と日本において考えられているビジネスの違い、などについてお話を伺いました。午後の文化交流では、東京大江戸博物館へ行き、中国人と日本人の合同チームで展示品に関するものから、欧米人や警備員さんと写真を撮るといったものまでさまざまなミッショニヤレンジしました。料理大会では、中華料理と日本料理を中心に作るといったもので、私の班はシーフードチャーハン、麻婆豆腐、グラタン、那須の炒め物、トマト砂糖掛けを作りました。（今思えば日本料理がない・・・）この時に、中国ではトマトに砂糖をかけて食べる文化があることを初めて知り衝撃的でした。

ついて、藤田觀光様では、日本の魅力を海外の方に伝えるにはどうしたらよいかについてディスカッションを行いました。企業訪問初日ということで、前日の元野村総研中国副經理・寺島様、元丸紅中国総代表・真鍋様からのアドバイスを頭にはおいていたものの、そう上手くはいかず、話が纏まらないまま発表といったこともこのころは多くありました。ただ、初日の一社目から、プレゼン発表を立候補したことは次の日以降大きく繋がったと思います。午後に伺った藤田觀光様は、かねてから興味のある業界で、今回の企業訪問の中で最も楽しみにしていた企業様だったのであります。休憩時間などを用い社員の方にお話を伺うことが出来ました。

四日目・企業訪問二日目は、JTB様、NNA様に伺いました。JTB様では、中国からの訪日修学旅行生を増やすにはどうしたらよいかについて、ディスカッションを行いました。(写真) JTB様がディスカッションをするにあたり、どのような点に着目すべきか具体的に、訪日修学旅行の目的について三点、なにを見たいのか(中国側)、なにを見せたいのか(日本側)、ハイライト、提言、などリストアップしてくださつていてることもあり、筋道を立ててディスカッションを行うことが出来、また、初めに前提条件をリストアップすることがいかに大切なことを学びました。

五日目・企業訪問三日目は、ファーストリティリング(GU)様、資生堂様を訪問しました。ファーストリティリング様では、中国でGUの認知度を飛躍的に高めるためにはどうしたら良い

いかということについて話し合いました。GUは今回の訪問企業の中で最も利用することが多い身近に感じる企業だったので、ユニクロの中国展開と比較して考えるなどして話を進めました。私たちの案は、ジーユーを自由(ji:yōu)と中国読みを用い、尚且つロゴも自由に変えてしまうといったものでした。この自由とは、GUのブランドメッセージでもある、「ファッショனを、もつと自由に。」の自由にも匹敵するのではないかという意味も込めて、です。これが驚くべきことに、GUというブランド名の本来の由来であることが予想したでしょうか。ファーストリティリング様も良い点に着目してくれたとコメントをいただきました。午後に訪問した士制度では「美しい生活の文化とはなにか」について話し合いました。訪問させていただく前は、日本国内シェア第一位の化粧品のメーカーということもしか知らないのですが、食や美術の展示をしていることも今回初めて知りました。また、化粧品部よりも資生堂パーサーの方が先に出来たということも知りました。また、夜の講演会では、外務省参事官/外務副報道官大鷹正人様のお話を伺いました。大鷹様には、2016年5月27日のバラク・オバマ大統領の広島訪問や、尖閣諸島をはじめとした領土問題、難民問題、NGOについてなどを伺いました。

翌日に行われた歴史勉強会では、中国と日本の歴史のとらえ方のちがいについて中国人学生と話し合いました。これを踏まえ、リードアジアプログラム最後のプレゼン発表のテーマは、「偏見や先入観が生まれやすい環境の中で、これからはより多くの良好な日中関係のためには何ができるか」というものでした。私の班が考えついた案は、相手国の言語・文化を学んでいる・興味のある学生が自国の子供たちに相手国の言語や文化を教えるというものの、旅行でも留学でも行つたことのある国は親近感が湧きやすい、旅行前に抱いていたイメージとよくも悪くもギャップが生まれることなどから、たとえば今回リードアジアプログラムで中国人学生24名と友達になりました、またそこで得たものを発信していくこと、日中互いの国でイベントや交流会を開催すること、互いの国にお仕事で関与しているOB・OGの方からビジネスの視点から見た相手国について話を伺うこと、などがあげられました。上記に述べた答えは、質問に関するシンプルな答えですが、そこに至るまでに、テーマの意味を一字一句考る作業から行いました。「偏見や先入観が生まれやすい環境の中で」→どうしてこういった環境になるのか、どのような偏見・関係とはどのような関係なのか、台湾と日本はどうか? アメリカと日本は? 日本とアメリカは良好な関係ではなく、守護関係にあるのでは?など互いの国によって良好な国例や偏見や先入観のとらえ方にはばらつきがありました。また、テーマには、「我々に出来ること」とあります。外交官の方(大鷹様ではない)に伺った話によると、政府間では一人一人の友好関係を築くことはなかなか難しいそうです。逆に捉えれば、一人一人の友好関係は私たち学生ならではの成し得ることだと思うので、これからはより多くのことにアンテナを張り、日中関係をよりよいものにしていくために来年は実行委員という立場でこのプログラムに参加したいと考えております。